

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	2019年9月10日	評価結果市町村受理日	2019年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhou_detail_022_kani=true&j_gyosyoCd=2171900067-00&servi_cd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	2019年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寝たきりにさせないようにその人の体調に応じて食事は出来る限り起きて、車椅子で皆さんと一緒に食べられる楽しみを感じて頂きたいと努めている。大広間を活用し、カフェを続けて地域の方々にも来て頂き、グループホーム(認知症)にももっともっと関心を持っていただけたらよいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のしたい事やできる事が叶えられるように、縫い物、洗濯物干しやたみ、植木の手入れや草取り等を職員と一緒にやっている。利用者は重度化傾向ではあるが、100歳以上の利用者が3名いて、皆が穏やかに安全で安心に過ごせる生活を提供している。市の委託を受けて事業所で認知症カフェを開催し、住民や馴染みの人との交流を楽しんでいる。利用者と共に家族同士が交流し、職員の歌や踊りで親近感が深まるように、意見や要望が気軽に聞ける機会として納涼祭を毎年開催している。古民家を改修した事業所は開設16年となるが、長年勤務する職員も多く馴染みややすく家庭的な雰囲気大切にしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り、ミーティングに必ず理念の唱和をし、理解をし、実践に繋げている。	毎日のケアで理念が意識づけて実践できるように、朝夕の申し送りとミーティングにて唱和している。尊厳を大切にしたい意向で職員との話し合いを考えているが、全職員での話し合いや振り返りがされていない。	開設以来の理念を全職員で話し合ったり、振り返ったりして、実践状況を評価する仕組みや見直していく機会を考慮する姿勢が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はなかなかと日常的に交流できていない。	事業所で開催する認知症カフェに住民が参加したり、児童館の子ども、友人・知人やボランティアが来所したりして交流している。地域の福祉祭に作品を出展し、見物に出掛けて交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りで子供たちと交流したり、ボランティアで歌や踊りの催し物の時は回覧板でお知らせをし、多くの方の参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、近況状況を報告し、出席者の方々の意見、助言を参考にしている。	事業所の現状を詳細に伝え、助言や意見をもらっている。委員から認知症カフェの助言・周知方法や地域行事の情報を得て、運営に活かしている。会議は参加者が出席しやすい夜間開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、地域包括センター、町内の民生委員の方々等、率直な意見交換をして協力関係を築いている。	書類提出やわからないこと等については、市に出向き担当者に直接聞いたり尋ねたりして、事業所の実情を伝えている。市主催の各種会議に出席し、情報交換し協力関係を築いている。電話やメールでのやりとりもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止対象を正しく理解しているが、玄関の施錠はせざるを得ない状況である。車椅子でのT字ベルト着用も一部の方に家族の了解を得て短時間着用している。	勉強会やミーティングで身体拘束について話し合い理解を深めている。家族に同意書をもらい、短時間ではあるが、車イスのT字ベルトと夜間の4本柵を使用している。日報に装着時間と実情を記載しているが、「身体的拘束の適正化のための指針」がつかれておらず、体制が未整備である。	身体拘束しないための指針をつくり、「身体拘束廃止委員会」のような会議を設置し、定期的な研修の実施、家族への理解も求めつつ、事業所全体で拘束しないケアに取り組まれたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間が理解しお互いに見過ごすことのないようにチェックし防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度での入居者さんがみえ、理解は出来ているので活用できるよう支援はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用者及び家族に納得の出来る様に十分に説明をし理解を得て頂くよう行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見要望を受け入れ、急な外出(飲食等)など対応している。	面会時に声かけし、面会が少ない家族には、手紙や電話で意見や要望を聞いている。納涼祭を兼ねた家族会を年1回開催し、月1回の近況報告書を送付して、家族の意見を積極的に聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい環境にあり、その時その時状況において意見交換が出来ていると思う。	管理者は職員の家庭環境や健康状態に配慮して、希望も入れて勤務を調整している。日頃の業務内やミーティングにて意見を聞いている。古民家で修理修繕箇所もあり、職員の意見を聞き買い換えや改善をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足によりストレスを感じる勤務状況になる事もあるが、お互いにフォローしあい対人関係を良好にするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は内容により受講対象者を決めたり、自発的に受講し、研修参加者はミーティング時に研修内容を発表し勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流する機会が出来ていない。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活して頂けるように、困っている事、不安な事が取り除けるように対話を繰り返し、安心感を持って信頼関係につなげる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番困っている事、どのようにしたいのか要望を聞き、少しでも要望に近づけるように話し合いをする対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望で他のサービスの利用が必要であれば、よく話し合い対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活している中で、お互いに支えあい、認め合い、仲良く関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の家族の状況を把握し、担当者を決めて、家族とのコミュニケーションを取りながら協力して頂けることはお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や近所の方等、気軽に面会できるように関係を支援している。	友人や親族が来訪時は、お茶を出し再来訪をお願いしている。電話をかける支援や年賀状・手紙は宛名の確認や代筆の支援をしている。家族の協力を得て美容院、カフェや自宅等に行き、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立にならない様に皆さんに話題を提供したりして、会話をすることであったり、利用者同士が助け合ったり会話している場面では見守りしている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとフォロー、相談の支援は遠のくことが現状だと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を尊重し、意向に沿うよう自由に安心して安全な生活が出来るようにしている。	利用者に寄り添い笑顔で話しかけ、発した言葉を聞き漏らさずに思いを聞いている。飲み物の温冷、作品作りや歌等も本人の希望を聞いている。困難な人には、生活歴から把握したり表情や仕草から推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境など把握し、今までの生活パターンに沿えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意思を尊重し、日々の心身状態を見極め、楽しく過ごせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ケアマネ、担当者で話し合い、意向、意見交換を行い、繁栄できるような介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、医師からは助言をもらい計画を作成している。利用者個々に気づきノートを作成し、毎月、全職員で情報を共有し話し合いとモニタリングをし、必要時は見直している。担当者会議に本人も参加してもらい意見を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報や気づきノートに記録し、申し送りで職員間で情報を共有し、話し合い、意見交換をし、見直しが必要かどうかを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診、通院など。また買い物等行っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない様に思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の受診については、家族と同意書を交換し、納得、理解を得ている。個々にかかりつけ以外の受診をされる方もみえ、家族の方の協力を得ている。	入居時に本人や家族の希望で協力医に変更する人が多い。家族が同行し、かかりつけ医を受診時は書面を渡し受診後に口頭で報告を受けている。歯科の訪問診療や柔道整復師のマッサージは希望に合わせている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で個々の体調の変化に気づき、情報を共有し、主治医と連絡をとり、すぐに受診が出来る様に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、洗濯物の受け渡しに行った時に状況、体調等の情報を得て、相談員の方と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命治療の有無など家族と話し合い、看取りについても家族と話し合っている。終末期については全職員が話し合い、理解して主治医と密に連絡を取り、取り組んだ経験がある。	看取りはしない方針であるが、医師の指示を受け看取った事例がある。重度化した場合は、医師から家族に説明してもらい職員と方向性を話し合っている。今後は、訪問看護ステーションと契約を結び、連携しながらの支援を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は定期的に全職員が受講し、実践力を身に付ける様努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施して、全職員が身につける様に努力している。近くの独居老人の避難場所としても提供している。	夜間想定も含めて利用者と一緒に避難用滑り台も使用し、火災・水害対策の避難訓練を実施している。住民の避難場所であり、水、米、乾パンや懐中電灯等を備蓄している。川が事業所の隣地を流れており土嚢も準備している。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導時の声掛けには注意し小声で対応している。	日頃のケアでの馴れ合いから態度や姿勢が、利用者の尊厳を損ねないように、特に言葉遣いに注意している。その人に合わせた声かけで呼び名は〇〇さんと呼んでいる。行事写真の掲示等は同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操やレクリエーション、入浴時等、本人の希望参加で自己決定してもらう。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせ、強要することなく希望に沿って過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装である事。本人のお気に入りの服も尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物、好みの物等、又、彩りよく盛り付けたり、楽しく食事が出来る様にしている。また利用者の方には、片付けなど出来る事を支援している。	野菜のすじとり、食器や食卓拭き等の利用者ができることを一緒に行っている。ユニット毎に献立を変えたり、大広間で一緒に食べたりしている。職員も一緒に食卓につき、話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食べる量や食べやすい摂取方法で、水分量については、確保できない人については、声掛けをしたり、形態を変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口をゆすいだり歯磨きしたり、自発的に行っている方もみえる。その他の方は介助により行う。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり個々のパターンを理解して、時間を見て声掛け誘導している。	二人介助しても日中はトイレ排泄を心掛け、素振りや排泄パターンで誘導し、自立できるようにしている。夜間はポータブルトイレ使用する人もいる。オムツからリハビリパンツ、布パンツ維持の人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫はもちろん、水分、牛乳等の摂取、また個々により便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、入浴時間内にタイミングに合わせて、強制することなく行っている。	個室、介助浴と状態に合わせて、二人・三人介助で入浴をしている。隔日入浴としているが、連続の人もあり順番や湯温も希望に合わせている。痛がる人には、声かけの工夫や職員が交代し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望やその時の体調に応じ、いつでもベッドで横になれるようにしている。夜間良眠出来る様に、日中はレクや歩いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬について理解し、誤薬服用の無いように確認しあって、症状の変化においても様子を見て気付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スーパーへ買い物に行ったり、プランターに花の苗を植えたり水やりなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	皆さんでドライブ、花見などの支援をしている。またご家族様の協力で自分の産まれた場所(九州)まで行かれた方もある。	気候や利用者の希望に合わせて、散歩やドライブに出掛けている。初詣や季節の花見物に、車イスの人も一緒に出掛けている。家族の協力で買い物や喫茶店に行く人もいる。敷地内の草取り、テラスで洗濯物干しや取り込みで外気に触れる機会を作っている。	

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族と相談した上で希望される方は少額を持って生活されている。また預かりもあり、いつでもつかえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、いつでも電話できるよう必要に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた手作り作品を掲示したりすることや、居間、食堂、台所が一つのホールになっているので、台所での食事の調理中の匂いなど生活感がある。	玄関に花を生け、枝付きの柿を飾り季節感を出している。自由にユニットを行き来したり、大広間でソファに腰掛けのんびり過ごしたりしている。廊下やリビングに季節の壁画、利用者の作品や行事写真を掲示し話題にしている。室温調整や換気に注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席、テーブル席、廊下には長椅子があり、自分の思い思いの場所に座って独りになってみたり、会話したりして出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望に応じ、使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、自室として居心地よく安心出来る工夫をしている。	家からタンス、イス、時計やラジオカセット等を持ち込み、家族写真、祝いの色紙や作品等を飾り、自分らしい居室にしている。日常着や外出着を自分で選んで着られるようにしている。居心地よく過ごせるよう環境にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事、出来ない事、理解しているか理解できていないかなど、職員が把握したうえで、トイレ、洗面所、部屋など、自立できる人の生活支援は安全第一に考えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171900067		
法人名	有限会社 東海ケア		
事業所名	グリーンホーム かさはら		
所在地	岐阜県多治見市笠原町4406-1		
自己評価作成日	2019年9月10日	評価結果市町村受理日	2019年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/1/ndex.php?acti=on_kouhou_detai_022_kani=true&I_gyosyoQ=2171900067-00&Servi_ceQ=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の申し送り、ミーティングに必ず理念の唱和をし、理解をし、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はなかなかと日常的に交流できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお祭りで子供たちと交流したり、ボランティアで歌や踊りの催し物の時は回覧板でお知らせをし、多くの方の参加を呼び掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、近況状況を報告し、出席者の方々の意見、助言を参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、地域包括センター、町内の民生委員の方々等、率直な意見交換をして協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止対象を正しく理解しているが、玄関の施錠はせざるを得ない状況である。車椅子でのT字ベルト着用も一部の方に家族の了解を得て短時間着用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間が理解しお互いに見過ごすことのないようにチェックし防止に努めている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見制度での入居者さんがみえ、理解は出来ているので活用できるよう支援はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム側でも納得のできない事は何度でも家族様と話をさせて頂き、確認を取らせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見要望を受け入れ、急な外出(飲食等)など対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい環境にあり、その時その時状況において意見交換が出来ていると思う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足によりストレスを感じる勤務状況になる事もあるが、お互いにフォローしあい対人関係を良好にするよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は内容により受講対象者を決めたり、自発的に受講し、研修参加者はミーティング時に研修内容を発表し勉強している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は交流する機会が出来ていない。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して生活して頂けるように、困っている事、不安な事が取り除けるように隣に座って対話を繰り返し、安心感を持って頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番困っている事、どのようにしたいのか要望を聞き、少しでも要望に近づけるように話し合いをする対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望で他のサービスの利用が必要であれば、よく話し合い対応する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る事、縫物であったり、洗濯物を干す、畳むであったり、職員が介助中他の方を見て職員を呼んで頂いたり、共に助け合い仲良く暮らせる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い、家族の思いを把握し、家族とのコミュニケーションを取りながら協力して頂ける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お互いが近所であり、訪問時など家族同士の会話が弾む時もあり、このような関係も支援できる様努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で歌ったり、作品作りをしたり孤立しないような時間を設けている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了するとフォロー、相談の支援は遠のくことが現状だと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や友人と外出したり、買い物の希望があれば出掛けたり、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、一人ひとりの会話の中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を把握し、心の状態や変化を気づき、日報、申し送りノート等により全職員が把握できる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、ケアマネ、担当で話し合い、意向、意見交換を行い、繁栄できるような介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日報や気づきノートに記録し、申し送りで職員間で情報を共有し、話し合い、意見交換をし、見直しが必要かどうかを検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診、通院、買い物、また本人の希望によるマッサージ等行っている。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない様に思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による訪問診療を受けている。個々のかかりつけ以外の受診をされる方は家族の協力を得ている。急な時は家族と連絡を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間で個々の体調の変化に気づき、情報を共有し、主治医と連絡をとり、適切な受診が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、洗濯物の受け渡しに行った時に状況、体調等の情報を得て、相談員の方と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	延命治療の有無など家族と話し合いを繰り返し、看取りについても話し合い、終末期については全職員が話し合い理解し、主治医に連絡を取り、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習は定期的に全職員が受講し、実践力を見に付ける様努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施して、全職員が身につける様に努力している。近くの独居老人の避難場所としても提供している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に心掛けている。特にトイレ誘導時の声掛けには注意し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の体操、レクリエーション、入浴、昼寝等、本人の自己決定で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせ、強要することなく希望に沿って過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装であり、本人のお気に入りの服、スカーフ等支援している。またご自身でも好きな物を身に付けてみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物、好みの物等、又、彩りよく盛り付けたり、楽しく食事が出来る様にしている。テーブル拭きや片付けなど出来る事を支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分を摂取できない方にはお茶やスポーツドリンクを寒天で固めて補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが出来ない方には職員がスポンジ歯ブラシで対応している。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段オムツの方も出来る限りトイレにて(排便は特に)排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物の工夫はもちろん、水分、牛乳、他の水分等摂取し、動くよう働きかけたり、また便秘薬を服用する方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているが、入浴時間内にタイミングに合わせて、強制することなく行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望やその時の体調に応じ、いつでもベッドで横になれるようにしている。夜間良眠出来る様に日中はレクやホーム内を歩いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用する薬について理解し、誤薬服用の無いように確認しあって、症状の変化においても様子を見て気付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の手入れをする人、個人的に折り紙で楽しむ人などある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に応じ(花見、紅葉)ドライブに出掛けている。また誕生日会で個々に外食や喫茶店、ショッピングなどに出掛けている。また家族の方が連れて行って下さる。		

グリーンホームかさほら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり、必要に応じて使えるよう支援している人もいる。個人で管理している方もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じいつでもできる様にしている。手紙は代筆することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ壁画や飾り物等を作成し掲示したり、食事の調理中の匂いなど、生活感がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席、テーブル席、廊下の長椅子等、自分の思い思いの場所で談笑されたりテレビを観たり塗り絵をしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望に応じ、使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂き、自室として居心地よく安心出来る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る事、出来ない事、理解しているか理解できていないかなど、職員が把握したうえで、トイレ、洗面所、部屋など、自立できる人の生活支援は安全第一に考えている。		